

“水俣工場縮小せぬ”

新日窒吉岡社長語る



水俣 吉岡社長
関 係 業 務
社 長
同 司
言 語
つ せ

ん委員会に出席のため来館中の吉岡新日窒社長は、このほど就任した北川水俣工場長を伴って、六日午後あいさつのため県庁を訪れ、しきのように語った。

水俣漁協に対しては昨年、工場汚水関係の補償協定で三千五百万円出している。浄化設備も完成し、排水もきれいになっているのだから、いまのといふものに補償金をふやす考えはない。むしろ年金の二百万円を減らしてもらいたいくらいだ。また不知火海沿岸漁協や鹿児島県出水市の漁協とのパランスもある。沿岸漁業が不振なら、工場の下請けや運搬などで仕事をせしめようというつもりだ。

水俣問題から、一部には水俣工場を縮小するのではないかとみられていたが、塩化ビニル業界はまた伸びる見通しだし、縮小の計画はない。しかし将来はコストの関係から石油ガスのことも考えなければならず、水俣に工場を増設できるかどうかは問題である。